

EPUの着実な歩みと これからの発展

愛媛県立医療技術大学は、「豊かな人間性と尊い倫理観によっ て培われた高度の知識と技術を有する医療人を育成し、人々 の健康と福祉の増進に寄与すること」を基本理念として、昭 和63年に短期大学として設立されました。平成16年には4 年制大学となり、平成22年に法人化し、平成24年には助産 学専攻科が発足しました。さらに、平成26年には大学院が 設置され、研究面においても充実した医療系大学として着実 に発展を遂げています。私も着任して2年近く経過し、これ までの本学の軌跡を熟知するとともに、解決すべき課題もしっ かりと理解できるようになりました。ここでは愛媛県立医療



安川正貴

技術大学のミッションを改めて見つめ直して、これから我々が目指すべき方向性について考えてみた いと思います。

改めて申すまでもなく、大学の使命は教育と研究です。本学は1学部2学科1専攻科という小規模 大学の特性を活かし、学生に寄り添ったきめ細やかな教育を実践しています。学生からの授業評価も 毎年高得点が得られています。昨年からは、学生の生の声に耳を傾け、彼らの要望やアイデアを大学 運営に直接反映させるために、各学年各学科の代表学生と教職員との意見交換会を開催しています。 今後も、学生中心の大学を常に意識した大学運営に努めて行きたいと思います。研究面においても着 実に成果が得られています。科学研究費などの競争的研究資金の獲得状況は当初の目標を大きく上回っ ており、他大学や企業との共同研究も活発に展開されています。昨年、愛媛大学医学部、岡山理科大 学獣医学部、愛媛県立衛生環境研究所との感染症の教育・研究に関する包括的連携協定も締結し、早 速人材育成、共同研究推進、医療人の生涯学習支援などに着手しました。今後も開かれた大学づくり を目指し、他大学、医療機関、行政との連携を推し進め、EPUの使命をしっかりと果たして行く所 存です。

教育と研究に加えて、社会貢献も大学の大きな使命の一つです。昨年はコロナ禍の中、ワクチン接 種や療養施設などへの教員の派遣を通して、愛媛県のコロナ対策に貢献できました。またこれらの支 援によって、県民の皆様の本学に対する認知度も大きく向上したのではないかと思っています。これ からも、地域に根差した大学、愛媛に貢献できる大学を目指した大学運営に努めたいと考えています。

本学は短期大学創立34周年、4年制大学となって18周年を迎えます。今まさに、EPUのこれま での歩みを振り返るとともにこれから進むべき道を再確認することが必要な時期を迎えようとしてい ます。ポール・ゴーギャンの有名な絵画、我々はどこから来たのか→EPUはなぜ創設されたのか、我々 は何者か → EPU の使命は何か、我々はどこへ行くのか → これから EPU は何を目指すのか、このよ うなことをしっかりと見つめ直す節目の時期です。出口の見えないコロナ禍で先行き不透明な混沌と した世の中ですが、EPUのミッションを見失うことなく、しっかりと前を向いて進んで行く覚悟です。 引き続き、愛媛県立医療技術大学へのご支援を宜しくお願い致します。

コロナ禍における 大学院教育

令和2年の幕開けとともに日本国内でも新型コロナウイル ス感染症が確認され、以後、いくつかの波を繰り返しながら 未だ終息の見通しがたたない状態です。医療のみならず、教 育にも大きな影響が及んでいます。本学においても愛媛県内 の感染動向を注視しながら授業を対面から遠隔に切り替える など対応してきました。遠隔授業は感染防止には利点がある 一方で、学生間や学生-教員間のコミュニケーション不足を 生み、学生たちの精神面が懸念されています。



研究科長 Junko Nakanishi

その点、大学院生はほとんどが自律した社会人学習者です

ので、そのような精神面での懸念はなく、また、少人数であることから、遠隔授業でも雑談なども含 めて対面で行う場合とほぼ遜色なく実施が可能でした。また、令和3年度の修士論文発表会は第6波 の最中となったため、オンラインでの開催となりましたが、トラブルもなく無事終了できたことは幸 いでした。この発表会は大学院修了の最終試験を兼ねており、大学院生にとっては最大の関門です。 この日を迎えるまでに日夜努力を重ねるわけですが、コロナ禍においては様々な形で影響がありまし た。

本学大学院生のほとんどは、保健所や医療機関に勤務しており、まさしく、新型コロナウイルス感 染症対応の最前線で働いています。そのため、特に、感染拡大が顕著な時期には、夜間や土日であっ ても授業に出席することが物理的にも難しくなり、また、疲労困憊した状態では学業との両立が難し かったと思います。さらに、本学大学院生、特に看護学専攻生の研究テーマは患者さんやご家族、看 護職を対象にした研究であるため、コロナ禍では研究協力をお願いすること自体が難しく、予定して いた計画通りに進まない困難もありました。

それでも、方法を変更したり、データ収集の時期をずらす等してなんとか、厳しい環境のなかでも あきらめずに取り組み、令和2年度には4名、令和3年度には5名の大学院生が修了し学位取得に至 りました。これは大学院生たちの熱意と努力の賜物であるとともに、職場やご家族のご理解とご支援、 何より研究にご協力いただいた皆様のおかげと感謝しております。

今後もまだしばらく続くであろうコロナ禍の影響を乗り越えて、大学院での学修や研究活動に成果 があげられるよう、私たち教職員一同、今後も支援していく所存です。

大学院卒業生の声

実践経験から感じた疑問を 大学院で研究し、探求し続ける

愛媛県立中央病院 NICU 矢野

Kaoru Yano

私が、大学院に進学した最初のきっかけは、自身 の臨床経験から医療的ケア児の家族の在宅支援を行っ ている中で、「疑問」が生まれてきたことからでした。

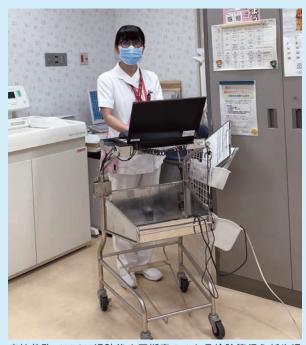
平成10年にNICUに配属され、平成22年より NICUにおける退院調整支援業務を兼任し、医療 的ケア児の家族に関わっています。そのため、在宅 移行準備の際には医療的ケア児の状態を考慮し、家 族の思いを再三再四確認しながら、退院へと繋げて います。長きに渡り看護師をしているため、自分の 傾向というものがあることは認識しています。そう



大学院修了後も研究対象者の追加をし、指導教員のもとで、 質的統合法によるデータの表札つくりの作業を行っている-

した中で、看護師としての価値観と医療的ケア児の 家族が感じる価値観にはどこか違いがあるのではな いか、日頃の看護から疑問にぶつかった時、その疑 間を知人や先生方にお話した際に、進学を勧められ、 ここなら自分の疑問の回答が得られるのではないか と感じました。さらに、同じ県立であるということ と、近距離にあり、社会人として学ぶ絶好の環境で あると考え、志望しました。

修士課程の学びとして、最初の1年間は、同期で 入学した看護学専攻だけでなく、医療技術科学専攻



病棟兼務でNICU退院後や正期産の1か月検診等行う新生児 内科外来と 1500 g 未満の就学前からフォローアップを行う 発達小児科外来をしています。

の同級生とも共に授業科目を受講しました。それぞ れの専門領域は全く異なっていたので、他の領域の 研究や課題を共有することができ、新たな発見があ りました。また、特に私の中で印象的だったのは、 プレゼンテーションとディスカッションを重ねる授 業でした。文献を読み、理解し、どのようにまとめ てプレゼンをするかが、とても大変でしたが、同時 に同級生と共に学ぶという過程は、とても楽しかっ たです。2年目以降は、修士課程の研究が中心とな り、授業で会う回数も徐々に少なくなりましたが、 学内で顔を合わせると進捗状況を報告し合いながら、 修士学位を取って先に卒業する同級生をみて嬉しく もあり、支えにもなりました。私は、この環境下で 刺激し合える関係が出来たことで、これは大学院だ からこそ味わえる財産だと感じながら、最長である 4年間在籍をしました。

修士の学位を得て、令和元年度に修了しましたが、 現在も研究対象者を追加し、指導教員の助言を頂き ながら、研究の独自性の探求を継続し、論文を作成 しています。修士課程の時から、自分の頭の中にあ ることを整理して、自分の言葉で説明する事は、と



ス院児支援コーディネーターとして医療的ケアが必要となり、 毎月定期的に受診されるこども達には、いつもパワーをもらっ ています。

ても苦手な作業で、今でも課題だと思っています。 今後も、自らの看護実践から研究を通して、これか らも看護や自分の考えを説明できる力を養っていけ るよう研鑽を積んでいかなければならないと思いま す。そして、修士論文のために、協力して頂いた医 療的ケア児の家族の方々によりよい在宅医療環境が 提供できたり、そこでの看護師の役割を明確に示し たりして実践し、貢献出来るよう努めていきたいと 思います。

Profile

略歷:愛媛県立新居浜病院入職後、愛媛県立中央 病院へ異動。平成10年4月~総合周産期母子医 療センター (NICU) に勤務、平成11年4月~ 新生児内科及び発達小児科外来を病棟と併行して 業務。平成22年~入院児支援コーディネーター として、医療的ケア児の退院調整支援業務を兼任。



入学時期は違えども、令和元年に共に修了した仲間達。修了 に向けて共に学び、互いを高め合うことで、一人ではないと 実感できたのは、仲間の存在のおかげでした。

学びなおし、感謝して仕事に活かす

直樹 兵頭 愛媛県立中央病院 検査部

Naoki Hyodo

私は保健医療学研究科在学中にセルブロック法の 研究に携わりました。セルブロックとは、細胞 (Cell) 塊(Block)の意味からも相互に結合性の乏しい無 数の小さな細胞を様々な方法で1つの塊にした物で、 そこから作製される標本には①重積の少ない標本像 が観察できる。②多種類の染色標本が作製できる。 ③後日遺伝子関連検査にも利用できる。など多くの 利点があることから、入学以前より興味をもってい た標本作製技術の1つでした。

この研究は2部構成となっており、第1部では私 が勤務中の気づきを基に考案した新しいセルブロッ ク法を評価する目的で、既知のセルブロック法とそ の細胞数や染色性を比較して差の有無を検討しまし



病院料理部活動の一コマ(中華料理コース) 「筆者(左)、検査部長(中央)、病理診断部長(右)」



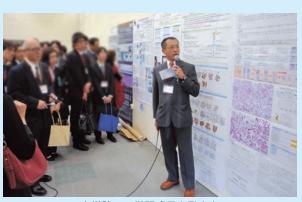
県下の病理細胞検査で活躍する有志と共に 「中央の赤いマスクが筆者」

た。その結果、論文構造の理解や実験データの取扱 い方法、統計解析手法の活用方法、参考文献の引用 方法など、多くの論文執筆に必要な基礎知識を学ぶ ことができました。また第1部の成果は、在学中に 日本臨床検査技師会誌の技術論文として受理されま した。

第2部では固定液で細胞検体を一定期間固定した のち、第1部で評価した新しいセルブロック法を用 いて標本を作製し、免疫組織化学染色を施すことで その陽性率と染色強度を比較して差の有無を検討し ました。その結果、第1部での学びを水平展開し綿 密な研究計画を立案することで、客観的な画像解析 方法が選択でき、より複雑な統計解析手法を活用す



大学院 保健医療学研究科 入学式 2014年4月



大学院での学習成果を発表中 日本臨床細胞学会 秋季大会 in名古屋」

ることができました。そののち第1部・第2部の研究内容は修士学位論文発表会での質疑応答を経て、修士学位論文審査に合格することで保健医療学研究科の修了を認められました。また第2部の成果は、保健医療学研究科修了後に愛媛県臨床検査技師会誌に原著として受理されました。

私は保健医療学研究科を修了したのち、愛媛県臨床検査技師会学術部の病理・細胞検査研究班の一員として県内外の班員と協働する傍ら、なるべく早期に大学院での学びを振り返り自身の力量を確認したいとの思いで、独力での論文作成に取り掛かりました。その研究内容は、兼ねてより疑問に感じていた迅速細胞診標本作製技術に関わるもので、細胞保存液中に浮遊する細胞が経時的に標本面に塗沫される度合いを数値化して比較しました。その結果、この成果は日本臨床検査技師会誌の技術論文として受理されると共に、思いがけず日本臨床検査技師会の優秀論文賞も受賞することができました。

結びに、就業しながら保健医療学研究科で学習す



大学院 保健医療学研究科 修了式 2016年3月



職場の同僚と共に、紅葉の石鎚山天狗岳山頂へ「筆者(右)、ノマさん(中央)、ヤマモトさん(左)」

る機会を得られたのは、ひとえに家族や職場の理解と協力のおかげに他ならず感謝の言葉もありません。 そして今年度拝命した病理検査係責任者としての責務を全うすることがこの恩に報いることと思い、今後は自己研鑽にとどまらずこれまでの学びを後進育成に役立てたいと考えています。改めて在学中支えてくださった多くの皆様、ありがとうございました。

Profile

2016年 (平成28年)

2021年 (令和 3 年)

1971年生まれ 愛媛県宇和島市吉田町出身 1993年 (平成 5 年)

愛媛県立北宇和病院 検査室 入職(技師) 1998年(平成10年)

愛媛県立今治病院 検査部(主任・第二検査係)

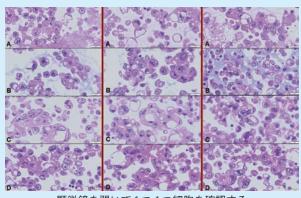
2004年 (平成16年) 愛媛県立新居浜病院 検査部 (主任・第二検査係)

2007年 (平成19年) 愛媛県立中央病院 検査部 (専門員・病理検査係)

愛媛県立新居浜病院 検査部 (専門員・第二検査係)

愛媛県立中央病院 検査部(係長・病理検査係)





顕微鏡を覗いて1つ1つ細胞を確認する 「特別研究(第1部)で計数した細胞画像の一部」

大学院生インタビュー

看護学専攻

(学年はインタビュー時のもの 2021, 12, 20)



看護学専攻 修士2年 滝澤 加代子さん (県保健師)



看護学専攻 修士1年 中矢 遥香さん (砥部町役場保健師)

大学院を目指したタイミングやきっかけを教えて ください。

滝澤さん:「いつか大学院に進学したい」という気持 ちを持っていました。しかし日常の業務を一生懸命 こなしていると、進学について改めて考える時間が 無かったり、自分自身が何を研究テーマにしていく かが見つからなかったりして、時間が過ぎてしまい ました。そのような中、職場の先輩に大学院進学し た方がいらっしゃってアドバイスを頂いたことと、 仕事で愛媛県立医療技術大学の先生とお話する機会 があり、今しかない!と決意しました。

中矢さん:母乳育児についてずっと興味があったの ですが、病院ごとに母乳育児に対する力の入れ方は 異なっている現状に疑問を持っていました。愛媛県 内で唯一、助産学専攻がある大学で、研究に力を入 れている先生方と一緒に母乳育児について研究をし たいと考え、進学しました。



インタビュワー 祇園 由佳(右)

お二人とも社会人院生とのことですが、仕事と大 学院生の両立は大変ですか?

滝澤さん:大変なこともありますが、先生方が社会 人大学院生の仕事のことなどを配慮して、授業を受 けやすいように調整してくださっているため、ほぼ 欠席することなく授業に出席できています。看護の 大学院生は社会人の人も多く、お互いに助け合うこ とができるので同期や先輩方にもとても感謝してい ます。

中矢さん:過去を振り返ってみて、「あの時は大変だっ たな…」と気づくことが多いです。仕事から帰って、 研究の課題をすることも多いですが、充実感や達成 感の方が強く、あまり大変だなと感じたことはない ですね。



大学院で取り組んでいる研究テーマについて教え てください。

滝澤さん:私は精神看護を専門としていて、その中 でも「自殺未遂者が支援を受け入れる経験」につい て研究しています。行政サポートなど支援の取り組 みが整備されつつありますが、実際には悩んでいる 方たちを支援につなぐことの難しさを実感しており、 そこをどうしたら少しでも支援を受け入れやすくな るのか、という内容で取り組んでいます。

中矢さん:「産後1か月以降の母乳育児による影響」 について研究しています。母乳育児を推進している 風潮がありますが、女性の社会進出によって、母乳 育児が難しい面もあります。また、母親が孤立しが ちで、サポートを受けにくい環境も問題です。その ような悩みを持ったお母さんたちに、どのようにし たら正しい知識を伝えることが可能になるかについ ても検討していきたいと思います。

研究の面白さはどんなことですか?

滝澤さん:研究活動をしていると、日常業務にも反 映できるような自分が知らなかった世界を垣間見る ことが面白いですね。人の経験や話というのは、そ の人にしか出来ないことで、とても意義のあること だと思っています。そういう内容についてインタ ビューを通して直接聞けることが、将来の困ってい る人をサポートすることに繋がるのではないかと責 任を感じつつ、やりがいも感じています。

中矢さん:働いていると論文を読む機会がなかった のですが、大学院に入って論文を読むようになり、 色々な知識を増やせていることです。先生方とディ スカッションしながら論文を読み進めると、色々な 視野で物事を感じられるようになるので面白いなぁ と、とても良い刺激になっています。

愛媛県立医療技術大学の大学院では、看護・検査 の合同講義があることが特徴ですが、実際に講義 を受けてみて、新たな発見や、影響を受けたこと などありましたか?

滝澤さん:「チーム医療」で看護・検査が合同の講義 を受けました。他機関、多職種の人がチームとなっ て、役割分担をし、同じ目標に向かって問題を解決 していくことが重要だなと改めて感じました。

中矢さん:チーム医療で多職種連携を改めて考え直 すきっかけとなりました。看護職だけでは同じよう な意見ばかりになってしまいがちですが、臨床検査 技師の方の意見は全く違う視点から物事をとらえて いて、同じ医療職であっても視点が異なるのだなと 感じました。様々な職種の意見を取り入れることが、 よりよい医療提供に繋がると感じました。それ以外 にも、保健師や専門分野の異なる看護師と話す機会 もあまりないので、その方々とお話できるのも良い 経験だと思いました。勤務経験数の異なる人たちが その垣根を越えて意見を言い合い、学びの機会に繋 がるのは大学院の講義ならではだと思います。

大学院での経験をどのように活かせそうですか?

滝澤さん:研究を通して、日々の業務実践を論文と して報告するノウハウを身につけ、意味のある形と して残し、今後の地域保健活動に役立てていきたい です。また自分自身が学びながら、新しい知識を実 践に取り入れ、そこで得た経験を職場などへさらに 波及させていければいいなと思っています。

中矢さん: 私の研究結果を世の中のお母さんたちに 役立てていきたいと思っています。私自身がまだ知 らないことが多いのですが、学ぶ機会を沢山いただ いておりますので、困っているお母さんたちへ正し い知識をお伝えしていければと思います。

愛媛県立医療技術大学大学院の特徴などを踏まえ て、進学を検討している学生へのメッセージをお 願いします。

中矢さん: 進学を迷われている方がいらっしゃった ら、是非その一歩を踏み出してほしいと思います。 私自身も進学する前は、勉強についていけるかとか、 仕事との両立などに対して不安を抱いていましたが、 今振り返ってみたら何故あんなに不安だったのだろ うと思います。自分の興味のあることをしっかり勉 強でき、新しく得られた知識を仕事にも還元してい けます!私たちが無理なく取り組めるように、先生 方が親身になって相談にのってくださる大学はここ しかないと思います!

滝澤さん: 私たちのニーズに対応してくださって、 いま私たちが求めている内容の特別講義などを開催 してくださるので、大学院は医療人として成長でき るところです。学部とは異なり、私たち主導で物事 を進めていくことができ、先生方も大学院生が学び やすい環境や内容を提案してくれて、私たちの限界 を突破させてくれます。大学院生活をとおして、新 しい自分が発見できます!思い立ったら迷わず、す ぐにチャレンジしてみてください!



ん:令和2年度愛媛県総合防災訓練(災 害派遣精神医療チーム: DPAT) の際の写真



中矢さん:ほっとママひろばで妊婦さん(左側 が妊婦さんです) がベビー人形を抱っこすると ころを見守っている写真

医療技術科学専攻

(学年はインタビュー時のもの 2021.11.23)





東 以杏さん

医療技術科学専攻 修士2年 医療技術科学専攻 修士1年 児玉 桐梧さん

大学院を目指したタイミングやきっかけを教えて ください。

東さん: もともと大学進学時から、進学については 意識していました。そして、4年生の時に、企業就 職を意識した時に、大学院を出ていた方が解析スキ ルも身に付きますし、キャリアプランにも良い影響 があると考え、学部を卒業してすぐそのまま進学す ることを決心しました。

児玉さん: 兄と先輩の影響ですね。 周りの同期たち が病院への就職を検討するなか、1つ上の先輩が他 大学への大学院に進学された話を聞いて、自分も大 学院に行くことを意識しはじめたのが最初のきっか けです。愛媛県立医療技術大学の大学院に進学する ことを決めたのは、自分の興味のあるテーマの研究 をされている教員の先生がいらっしゃったので、こ こで頑張りたいと改めて思ったからです。



インタビュワー 祇園 由佳(右)

大学院での生活はどのように過ごしていますか?

東さん: 私は修士課程を修了する目前のタイミング で、現在はデータをまとめたり、修士論文の学位審 査の準備をしたりしています。実験をしていた頃は、 指導教員と予定を合わせて1日3~4時間実験をし て、その後はその日得られたデータの解析を1~2 時間程度行っていました。先生と1対1で研究をで きたのも、愛媛県立医療技術大学だからこそ出来た ことかもしれません。

児玉さん: 僕はまだ研究の準備段階で時間の余裕が あるので、実習の手伝い等も大学院生として行って います。実習の手伝いを行うことにより、後輩への 指導が出来たり、臨床検査の知識をより深めること ができたりするので、自分にとって将来役立つ良い 経験を出来ているのではないかと感じています。





大学院で取り組んできた、もしくはこれから取り 組む予定の研究テーマについて教えてください。

東さん:トリプトファンの新規簡易検査法の開発を 目指して研究を行ってきました。トリプトファンは 鬱病などの精神疾患の指標になり得る必須アミノ酸 の1つです。現代はストレス社会であると良く耳に されていると思いますし、精神疾患・メンタルケア は重要なポイントです。しかし、現在の臨床現場で は、患者さんが感じている主観的な情報に加えて、 一定の診断基準に当てはまるかといった判断が診断 材料になっています。そこに客観的数値である、ト リプトファン検査値を加えることによって、新たな 診断基準や潜在的な鬱状態の患者さんを早期に発見 できるのではないかと考えています。私の研究が将 来的に、診断に役立つ検査法の開発に繋がればいい なと思っています。

児玉さん: 脳波検査を用いた運転中の認知機能を測定する方法の開発に取り組んでいます。 高齢化により運転ドライバーに占める高齢者の人数も増えていますし、それに伴う交通事故のニュースも多く報道され、社会的問題にもなっています。 高齢者の運転免許更新時には認知機能検査が実施されていますが、その検査がどこまで信頼できるものなのか明確ではないと自分自身は感じています。 それを脳波という目に見える形で、客観的に評価する検査が役に立つのではないかと思って、これからより詳細に検討していく予定です。



愛媛県立医療技術大学の大学院では、看護・検査 の合同講義があることが特徴ですが、実際に講義 を受けてみて、新たな発見や、影響を受けたこと などありましたか?

東さん:検査とは異なり、看護の院生には社会人院 生の方が多くて、社会経験を積まれた方から現場の 話を聞けたことが、とても新鮮でした。社会人キャ リアがある方と、一人の大学院生として対等にディ スカッションできたことも良い経験となりました。 児玉さん:看護師や保健師、助産師として働いてい る方と意見交換することによって、いろんな視点で 物事を考えられることができるようになったと感じ ています。学部時代の講義ではなかなか聞くことの できなかった職種の方の話も聞けたのは、医療人と なるうえで貴重な時間だったと思います。



在学中にチャレンジしたこと・したいことは何で すか?

東さん: 英語論文をたくさん読んだことですかね。 正直、英語論文に対しては苦手意識がありましたが、 社会人になっても必要なスキルだと思うので、今後 にも活かせる経験になったと思います。

児玉さん: 卒業研究時のときのように、ある程度結果が推測できる実験をするのではなく、先生も自分自身も未知のことに取り組んでいくことが面白そうだなと感じています。

愛媛県立医療技術大学大学院の特徴などを踏まえて、進学を検討している学生へのメッセージをお 願いします。

東さん:学部生の時もそうですが、大学院では教員との距離がより近くなります。大学院生は少人数なので、一人一人を大切に指導してもらえていると感じています。研究などで自分が思ったことや感じたことを、先生にストレートに伝えてディスカッションし、少しずつ研究を発展させていけることが大学院研究の魅力だと思います。先生とも、教員対学生というより、一個人として研究プランなどを相談できるようになって、研究者としての一歩を踏み出せるのではないかなと感じています。

児玉さん:大学院は実際に自分で考えて、手を動かして解析するので、解析スキルを身に着けたいとか、何故なんだろう?とか疑問に思っていることを突き詰めていくことが好きだと思っているのであれば、大学院に合っていると思うので、ぜひ進学してみたらいいと思います。



東さん:中間発表会



児玉さん:研究計画発表会

看護教育・技術学分野の紹介

本学大学院保健医療学研究科・看護学専攻には6つの研究分野がありますが、基盤看護分野は、看護教育学と看護技術学の2つの研究領域から構成されています。愛媛県内はもちろん、全国的にも看護教育学を専門とする研究分野をもつ大学院は、それほど多くありません。将来、看護教員になりたいと考えておられる方は、本学の大学院で看護教育に関する単位を取得した場合、看護教員養成講習会の



受講を免除されますので、県外に出て講習を受ける必要がなくなります。ぜひ、本学大学院での看 護教育学の履修を検討されてみてはいかがでしょうか。

授業科目としては「看護教育学特論 I・II」「看護技術学特論」の履修をベースに、「看護教育学・技術学演習」「特別研究 I・II」を開講しています。前期開講の「看護教育学特論 I」は、看護学教育の基盤となる教育学や看護学教育独自の教育に関する知識の修得を目指して、主に文献講読やプレゼンテーション、ディスカッションを通して、看護師養成教育のみならず看護継続教育に関する知識も深めています。また、後期開講の「看護教育学特論 II」は、前期の学習を基盤とし、知識を実際の教育に適用することを目指して、授業計画やカリキュラムを作成するという演習に取り組みます。専攻する大学院生の多くは、既に看護師養成教育や後輩看護職の育成に携わっている、あるいは携わった経験があるため、過去の自身の教育活動をふり返り、課題を発見する良い機会になっているようです。「看護教育学・技術学演習」、「特別研究 I・II」は、看護教育学、あるいは看護技術学を専攻する学生が履修する科目であり、自身の修士研究につながる課題の文献講読や自身の問題意識の言語化に取り組み、最終的に研究へとつなげています。これまでに7名の修了生を送り出し、教育現場や看護の実践現場で活動しています(表参照)。

「看護教育学」は、看護学の教育に共通する課題を追求する学問領域であり、看護職養成教育だけでなく、看護継続教育のあり方なども検討していきます。また、「看護技術学」は、看護職者が実施する看護のエビデンスを追求する領域です。看護職者の専門職としての職業的発達を支援すること、それが私たち領域の目指すところです。

表 看護教育・技術学分野の修士論文タイトル一覧

2016年度

看護実践への知識と技術の活用を支援する教員の教授活動に関する研究

- 看護技術演習に焦点をあてて-

看護学実習中の看護学生が他者との相互行為において知覚する困難に関する研究

新人看護師を支援する先輩看護師の行動に関する研究

2018年度

看護師長が実践する感染管理活動の解明

2019年度

看護学実習中の学生行動に対する臨床看護師の知覚の解明

- 指導の必要性を感じる学生行動に焦点をあてて-

2020年度

先輩看護師が知覚する新人看護師のよくない行動の解明

他領域の大学を卒業した看護系大学の社会人学生が知覚する経験

教員との相互行為に焦点を当てて一

看

尾上 智子講師 基礎教育講座

Tomoko Onoe



私の子供時代の楽しみは、友人たちと探検隊を結成し、地域の中の「秘境」とも呼べるスポットを探検することでした。その後、探検とは無縁の中学・高校時代を過ごしましたが、大学でフィリピン語を専攻し、気がつけば、フィリピン各地を探検する仕事に魅かれてフィリピン地域研究の道を進んでいました。

私が研究のフィールドに選んだのは、ルソン島北部の山岳地域にあるカリンガ州です。大学院生の時、私は通算2年半に亘って、そこに暮らすカリンガ族の「見習い」をさせていただきながら、彼らの社会・文化について詳細に記録するという仕事に取り組みました。とりわけ、彼らが病気に罹患した際、どのように対処するのかや、彼らが現代医療をどのように受容しているのか、という点に関心を持って、医療人類学の視角から研究を続けています。

この度、本学への着任に伴って愛媛県に移って参りましたので、今後は、県 内各地でもフィールドワークを実施し、在日外国人の人たちに対する充実した 保健医療サービスの在り方について皆さんと共に考えていきたいと思っています。

光井 綾子講師 成人・老年看護学講座

Ayako Mitsui



私は、愛媛大学医学部附属病院の外科系病棟と内科系病棟、地域連携室で看護師として働いてきました。看護師時代には、病院内外で他職種と連携しながらスピード感をもって関わることで、一見不可能と思えることでもアイデアやタイミングによって、患者さんやご家族のニーズに沿った支援を提供できることを実感しました。その後は教員として県内外の大学で働き、2021年4月に母校である本学に着任しました。教員となってからは、教育の難しさや奥深さを実感しながらも、成長していく学生の姿を目にすることで、嬉しさとやりがいを感じてきました。日々進歩する医療や社会の変化に柔軟に対応できる看護職の育成に貢献できるよう、日々精進していきたいと思います。

万純 _{助教} 成人·老年看護学講座 森

Masumi Mori



昨年9月1日付けで成人・老年看護学講座に着任いたしました森万純と申し ます。徳島生まれ、愛媛育ちです。学部から大学院に進学・修了後、がん専門 病院勤務の後、違う角度から看護学について学び直したいと思い、教育機関に 飛び込みました。地元で成人看護学の教員としてスタートしましたが、以前か ら関心のあった老年看護学について学びたいと思い、8年間県外で修行の後、 地元に帰って参りました。現在は、認知機能が低下した高齢がん患者の痛みに 関する研究に取り組んでいます。

これからは、愛媛県の高齢者医療・看護・介護に微力ながら貢献できるよう に自分磨きと、未来の看護専門職である学生たちの素朴で豊かな力を引き出せ るサポーターとして、邁進していきたいと思っています。皆さんと一緒に高齢 者看護について考え、実践できることを楽しみにしています。

山下 玲子 特定教員 母性・小児看護学講座、助産学専攻科

Reiko Yamashita



新卒で就職した当時は、「何でもできる助産師になるぞ」と思っていました。 都内の周産期医療センターで4年、静岡県で専業主婦・子育て時代にベビーマッ サージ教室を起業し、その後、県内の個人クリニックで3年働きました。未熟な 助産師でしたが、沢山のお母さんと赤ちゃんから教わったことは、一生忘れられ ない宝物になっています。時代の変化とともに助産師の役割は幅広く多様化して いますが、どんなときでも女性に寄り添う応援役でありたいと考えています。

昨年から、教員と並行して本学の修士課程で学んでいます。学べることは贅沢 であり面白く、充実しています。助産師の禁煙支援について熟練助産師の経験を お聞きし、研究したいと考えています。

ご縁あって、教員として働かせていただき感謝しています。学生さんが対象者 に寄り添える看護・助産ができるよう、一緒に学んで切磋琢磨していきたいです。

美間 健彦 教授 基礎検査学講座

Takehiko Mima



令和3年2月より臨床検査学科の微生物検査学の教員として赴任しました。 私は、中学生のころに、将来は研究者になりたいと思うようになりました。研 究者を目指して岡山大学薬学部に進学し、博士号取得まで岡山大学で過ごしま した。学位取得後、約5年間米国に留学した後、北里大学医学部、岡山大学大 学院(医学系)で教員経験を積み、本学に参りました。大学4年次の配属実習 で微生物学の研究室を選択して以来、一貫して微生物学(特に細菌の薬剤耐性) を専門としています。

微生物検査の第一の使命は、感染症が疑われる患者さんから、原因微生物を 検出することです。新型コロナウイルスの猛威によって、感染症を専門とする 医療人の重要性が増しています。臨床検査技師も感染対策チームの一員として、 一層高いレベルの役割を果たすことが求められています。将来起こり得る新興・ 再興感染症にも対応できる真の実力を備えた臨床検査技師を数多く育て、愛媛 県の医療に貢献したいと考えています。



令和3年4月1日付けで着任致しました竹内一人と申します。まず、昨今の 新型コロナウイルス感染症関連のご対応に対し多大なご尽力・ご貢献をなされ ている医療従事者・関係者の皆様に深い感謝と敬意の意をお伝え申し上げ、ご 挨拶させて頂きます。

私は愛媛大学医学部医学科を卒業後、同第一内科(現血液・免疫・感染症内科学)に入局致しました。同大学院医学系研究科博士課程修了後は、宇和島社会保険病院(現JCHO宇和島病院)内科、愛媛県立中央病院血液腫瘍内科、愛媛大学医学部附属病院第一内科、同腫瘍センターなどずっと愛媛県内で血液内科・腫瘍内科の診療・教育・研究に励んで参りました。

本学長の安川正貴先生は同門で学生時代からの恩師です。私の講座では血液 学、臨床病態学など多くの講義・実習を担当し、学生の教育・研究に尽力して おります。愛媛に根差して世界に発信する医療人を育成し、愛媛の医療に貢献 致します。何卒宜しくお願い申し上げます。

祇園 由佳 准教授 生体情報学講座

Yuka Gion



2021年9月1日付けで臨床検査学科生体情報学講座に着任いたしました祇園由佳と申します。前任地の岡山大学医学部保健学科では、血液実習、病理実習、解剖実習などを担当しておりました。研究テーマは「悪性リンパ腫・リンパ増殖性疾患」を主軸としつつ、他にも頭頸部腫瘍や婦人科細胞診検体の病理学的解析や遺伝子解析を行ってきました。病理組織標本の作製や遺伝子実験操作など、細々した作業が得意です(おおざっぱな性格にもかかわらず笑)。

いま、業務拡大などで臨床検査技師は変遷期を迎えています。さらに新型コロナ感染拡大により遺伝子検査を担える技師の重要性も高まり、病院が求める検査スキルも変わってくることが予想されます。最新医療の現場に必要とされる検査技師の養成に努め、私自身の経験を活かしつつ、学生の皆さんに研究活動の楽しさを伝えられたらいいなと思っています。

矢野 弘子 助教 **生体情報学講座**

Hiroko Yano



2021年4月に着任しました、矢野弘子です。香川県生まれで、大学院の修了後は高知県と大阪府で臨床検査技師養成校や分析化学系専門学校の教員、一般企業の研究員として過ごしてきました。企業では、動物実験や微生物培養、細胞培養、ヒト試験といった生体情報に関係するものから、HPLCやGC-MSといった機器による分析まで、幅広く経験させていただきました。愛媛県に住むのは初めてですが、地元にも近く、充実した日々を過ごさせていただいています。臨床検査技師の知識と技術が、医療現場のみならず、どのように企業で役立つのかについてや、イラクにおける海外支援など、これまでの経験を少しでも学生の皆さんに還元していければと思っています。今後多様化する社会のニーズに向けて、様々な場で活躍できる臨床検査技師の養成を目指して、微力ながら精進してきたいと考えています。

臨床検査学科

床検査学科

大学の風景 ~With コロナ特集~

コロナ禍で大学も多大な影響を受けています。オンラインを活用して教員が作成した授業動画を用いた講義やWeb会議システムを使用して双方向の授業を自宅にいながら受講できるようになるなど、対面式講義に加えて多様な方法で授業を展開しています。一方で、看護職や臨床検査技師の養成には、実習や実験が必須で、感染防止に留意しながら、どのように授業を展開するかそれぞれの学科が工夫を凝らしています。本学は臨床検査学科を有することで早期に学内PCR検査体制を整備し、特に学外実習については、安心して実習を受け入れていただけるよう努めています。また、毎年大勢の高校生が来学してくださっていたオープンキャンパスの実施方法も、少人数の来学型やWeb型と様変わりしました。また、協定を結んでいる高雄医学大学との交流もビデオメッセージを通じて行いました。

授業風景

対面授業が実施可能な時期でも、県外での就職活動や健康観察中の学生を対象に、Zoomによる対面授業の中継を行っています。4年生の医学検査診断学Ⅱでは授業風景をビデオカメラで撮影しながら、スライドを画面共有して授業を行いました。コロナ禍で学生が不利益を被らないように、きめ細やかで柔軟な対応を心がけています。

また、急性期看護論実習では実習室を病棟に見立て教員が患者・看護師役となり、学生が患者さんの状態をアセスメントし看護を提供するシミュレーション教育を実施しました。実施場面を他の学生とともに振り返ることで、より良い看護を提供するための方策を考えています。



臨床検査学科:医学検査診断学Ⅱ



看護学科:急性期看護論実習



国際交流も兼ねて 高雄医学大学へのビデオメッセージ

2年生の国際文化コミュニケーションCの授業では、本学が学術交流協定を結んでいる台湾の高雄医学大学に向けて、コロナ禍における応援メッセージビデオを作成しました。看護学科、臨床検査学科2年生合同で中国語でのメッセージを練習して撮影しました。

新型コロナ PCR 検査



学外実習に臨む学生や就職活動で県外に出た学生などを対象に、学内で新型コロナPCR検査を行っています。学内の状況に合わせた迅速な検査体制が整っており、少ない月では10件程度、多い月では100件以上の検査を行っています。本検査で陰性確認をとることで、学生は安心して実習や講義に参加することができます。

オープンキャンパス



8月 Web型オープンキャンパス



10月 来学型オープンキャンパス

8月のオープンキャンパス (OC) は、コロナ感染が急激に拡大した時期での開催となり、Zoomを用いたWeb型OCを3日間実施しました。写真は教員と学生が各自PCとヘッドセットを装備して、高校生らをお迎えしている様子です。

10月と12月のOCは、コロナ感染が下火となっており、20名限定の来学型と、その様子をビデオ中継するWeb型を並行して行いました。写真は、高校生の質問に在学生が答えている様子です。Web型の高校生もチャット機能を使って質問を受け付け、活発な質疑応答が行われました。今回、Web型のOCは初めての試みでしたが、参加者アンケートではWeb型でも実際の大学の雰囲気がよく分かったとの声も頂き、遠方の方でも参加できる新しいOCの形として可能性を感じるOCになりました。

地域交流センター (EPU-Local Community Center) 事業

地域交流センターは、2004 (平成 16) 年の開学以来、地域と大学を結びつける活動を継続しています。このような活動は、県内の保健・医療・福祉の質向上を通して、県民や地域住民の健康を維持・増進に貢献することを目指しています。実際には、下表に示した4つの機能を発揮するために、様々な事業を展開しています。

地域交流センターの機能と各種事業

| 機能 | | 事業名 |
|------|-------|--------------------------|
| 人材育成 | 専門職 | ホームカミングデー |
| | | 看護実践セミナー/臨床検査技師実践セミナー |
| | | 思春期保健スキルアップセミナー |
| | | 妊娠期から子育で期の切れ目のない支援に係る研修会 |
| | 一般・学生 | えひめ高校生生体機能研究プログラム 他 |
| | | 県内高校への出張講座/メディカルトーク |
| | | 学生ボランティア登録 |
| 調査研究 | | 卒業生・修了生支援のための研究 他 |
| 相談支援 | | 臨床看護研究相談室/自主研究会・研修会の支援 |
| 情報発信 | | ホームページ・広報誌への発信/活動報告書の発刊 |
| | | 地域貢献グッズの貸し出し 他 |

令和3年度の活動実績(抜粋)

幼稚園児対象感染予防対策事業

砥部町立麻生幼稚園の園児達を対象に、医技大守 護レンジャーの動画視聴や顕微鏡による病原体の観察、 手洗いの実際等の感染予防教育を実施した。



ひろた子どもあそび広場(科学体験教室)

砥部町の広田地域や山村留学センターの小学生・ 保育園児を対象に、遊びを通して科学の面白さや身 の回りにある科学を実感してもらう教室を開催した。





専門員 (図書館司書) 泉 浩

Hiroshi Izumi

図書館ではオリジナルマスコットキャラクター「える」が活躍しています。資料持ち帰り用バッグ、しおり、シール等グッズとして、図書館紹介動画のコーディネーターとして、SNSでは図書館の顔として奮闘しています。「かくれえる」も図書館にいますので探しに来てください。

図書館には、興味を引くようなテーマコーナーがあります。「医療マンガ・絵本コーナー」には、医療に関するマンガや絵本が最新刊まで揃っています。特にドラマ化されたマンガの原作は人気です。「国試コーナー」には、看護師・保健師・臨床検査技師・助産師の国家試験に関する資料が充実しています。「就職・資格コーナー」には、面接や小論文等に関する資料、「一人暮らし応援コーナー」には、家事やトラブル対策等に関する資料が揃っており、よく利用されています。

図書は5冊まで2週間借りることができます。 「医中誌」や「メディカルオンライン」「CINAHL with Fulltext」等のデータベースや電子ジャーナルは学外の方も利用できますので、お気軽にカウンターで申し込んでください。図書館利用の方は、直接大学図書館のある3階までお越しください。











Information

【インフォメーション】

図書館利用案内 《学外の方の利用案内》

利 用 時 間 平日/8:40~21:00 土曜日/8:40~17:30

図 書 借 出 借出冊数と期間は、5冊2週間です。

資料宅配サービス 送料をご負担いただきご自宅に希望の資料をお送りします。

電子 リソース データベース、電子ジャーナルを利用できます(一部利用できないものもあります)。 1枚10円でプリントアウトも可能です。

【利用可能な電子リソース】

- 医央誌Web
- メディカルオンライン
- SCIENCE
- CINAHL with Fulltext
- 最新看護索引Web
- 国立国会図書館デジタルコレクション
- MEDLINE with Fulltext
- Chronic Illness

公衆無線LAN 持ち込み用PCやタブレットでインターネットに接続できます。

S N S 図書館facebook https://www.facebook.com/EhimePULib/ 図書館Twitter https://twitter.com/EhimePULib

令和4年度 学年曆(予定)

| ● 春季休業日 ~ 3月31日 | ● 大学院入試 (一般入試・社会人特別選抜入試) 9月10日 |
|---|---|
| ガイダンス等 ···································· | 後期授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 健康診断 4月15日午前 新入生オリエンテーション 4月15日午後 交通安全講習会 4月28日午前 進路セミナー(第2回)(職業紹介) … 4月28日午後(3・4年生) | 学部 学校推薦型選抜入試 11月19日学部 社会人特別選抜入試 11月19日助産学専攻科入試 (本学枠・県内枠・一般枠) 11月20日 |
| ● 内科健診 ······ 5月21日午後 28日午後 | ● 冬季休業日 ···································· |
| ホームカミングデー 6月18日開学記念日 6月20日前期試験 8月1日~5日 | 後期試験 ···································· |
| ● 夏季休業日 8月11日~9月30日 (助産学専攻科の夏季休業日 8月8日~8月26日) ● 第1回オープンキャンパス 8月16日~8月19日 | ● 学部 一般選抜入試(後期日程) ······· 3月12日● 卒業式・修了式 ········· 3月17日● 春季休業日 ·········· 3月18日~ |

日程など詳細は大学ホームページをご参照ください。https://www.epu.ac.jp/campus/calendar/index.html

広報誌「砥礪(しれい)」についての意味

『砥礪(しれい)』とは、「①砥石(といし)②とぎみがくこと」とあり、さらに「学問、修養などを高めようと努力すること 【大辞泉:小学館】」などの意味があります。平成16年に大学が開学して1年経った平成17年に、本学の位置する砥部町にちなむとともに、大学広報誌の名称としてふさわしいということで多くの賛同を得て決定された経緯があります。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地 TEL 089-958-2111 FAX 089-958-2177 ホームページ https://www.epu.ac.jp/



編集後記

本誌では、大学院卒業生の現状を伝える「大学院卒業生の声」と現役大学院生の生の声を伝える「大学院生インタビュー」を掲載しました。過去、現在、そして未来を見据えた、現場で活躍する大学院生・卒業生の声を皆様に届けられているのではないでしょうか。さらに、「看護教育・技術学分野の紹介」では、本学大学院看護学専攻の特徴的な授業について紹介しました。前々号、前号で特集を組んでいた大学院教員の研究活動紹介と併せて読んでいただくことで、本学大学院の魅力を感じていただければ幸いです。

また、本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行は収まらず、本学でもwith コロナ時代に合わせた様々な取り組みを行ってきました。「大学の風景」では、そのようなコロナ禍で変化した、本学の様々な場面を紹介しております。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿をお寄せいただきま した皆様に、心から感謝申し上げます。

広報委員会一同